

# 技術の結晶 空へ

## 国産ジェット旅客機に部品

豊富な水資源と安価な電力、勤勉な県民性を背景に日本海側屈指の工業生産力を誇る富山県。国内外から高い技術力が注目される企業が立地する。2017年の幕開けに、情熱を持った富山の「ものづくり人」を紹介する。

### ものづくり人

①

機械部品製造「石金精機」(富山市流杉)の会議室で2015年11月11日、中島康広(取締役製造部長、51)をはじめとする約10人が、固唾をのんでインターネット中継を見守っていた。スクリーンには、

愛知県名古屋空港を離陸しようとする国産初のジェット旅客機「MRJ(三菱リッジヨナルジェット)」の試作機が映し出されていた。

### 石金精機 (富山市)



大型加工機の前でMRJの模型を手にする中島さん(右)と北村さん—細野登撮影

飛び立ったMRJの主翼には、石金精機が製造した部品が使われていた。約1時間半の初飛行は成功。拍手に沸く会議室で、中島さんは「ようやくみんなの苦労が報われた。安堵の表情を浮かべた。製造の中心を担う北村達也さ

### 航空機事業に着手

1951年に「不二越鋼材工業」(現・不二越、富山市)の下請けとして創業した石金精機は、工作機械や半導体装置の製造を主力としてきた。2008年のリーマン・ショックによる不況の影響を受け、「次世代のための仕事」として航空機事業に着手。10年7月にはボーイングから装備部品を受注し、13年7月にはMRJの主翼部品を受注した。MRJの部品は、約60キ

ロの鉄の鋼材を、0.01ミリの精度で削って完成させる。キ・タほどの製品だ。当初、この部品は航空機産

## 「命預かる緊張感 妥協は許されない」



愛知県名古屋空港を離陸するMRJ (2015年11月11日)

ないものづくりの薫陶を受けて、技術者として成長してきた。加藤元専務の口癖は「作業の意味を頭で考えながら手を動かさず」。時には無理難題を要求されても、中島さんは「できないと思ったらそれ以上進歩はしない。難しくても、頭と手を動かして続けなければ必ず解決の糸口は見えてくる」。そんな姿勢で仕事に取り組み続けてきた。

業が盛んな中部地方の精密部品メーカー3社が受注していた。だが、硬い鋼材の複雑な加工に苦戦し、1年ほど遅れて11年に石金精機にも声が掛かり、受注に向けたテスト加工が始まった。

### 「悪夢」をチャンスに

先行する3社では、部品の切削に挑んだ技術者が納期に苦しんで病床に伏したり、諦めて辞表を出したりしたと聞き、「主翼部品の悪夢だ」とも社内で言われたが、逆に中島さんは、「願ってもないチャンス」と捉えた。

うちの昔からやってきた工作機械部品の工程と同じだ(中島さん)と、諦めなかった。これまでの技術の集積を生かし、2年近くかけて、最高度の精度が求められる航空機の主翼部品の受注に成功した。

品質の高さが評価され、MRJの量産機では、試作機のと比べて多くの部品を製造す

るようになった。量産体制に入った石金精機が次に目指すのは、部品を自動生産する際に不良品の数を減らすことだ。北村さんは、全工程をほぼ自動で行えるよう、現在も試行錯誤を繰り返している。

(本多正樹)

### さらなる受注獲得へ

北陸経済研究所によると、本県の機械工業の発展は1928年の不二越鋼材工業の創業が大きく寄与しているという。軍需に際して「不二越協力工場会」が編成され、その後、さまざまな機械メーカーが誕生。石金精機の本社が立地する富山市第二機械工業センターなどの工業団地も全国に先駆けて造られた。

### 成長分野に飛び込め

三菱航空機初代社長で県航空機産業アドバイザーの戸田信雄氏(71)(富山市出身)の話「航空機産業は成長が見込める分野だ。大規模な設備投資や高い技術が求められるが、一度仕事を獲得すれば長期にわたって受注が続く。リスクを取って成長分野に飛び込めるかどうかは、経営者の判断と技術者の腕にかかっている。石金精機がたゆまぬ努力で難しい部品製造に成功したのは好例だ。2017年は、富山のものづくり企業が、世界に羽ばたく挑戦の年となることを期待したい」

石金精機など県内の6社は2016年、県航空機部品共同受注グループ「ソラトヤマ」を設立した。機械加工や表面処理など、各社の強みを生かしながら連携して営業活動を展開し、航空機産業でさらなる受注の獲得を目指す考えだ。